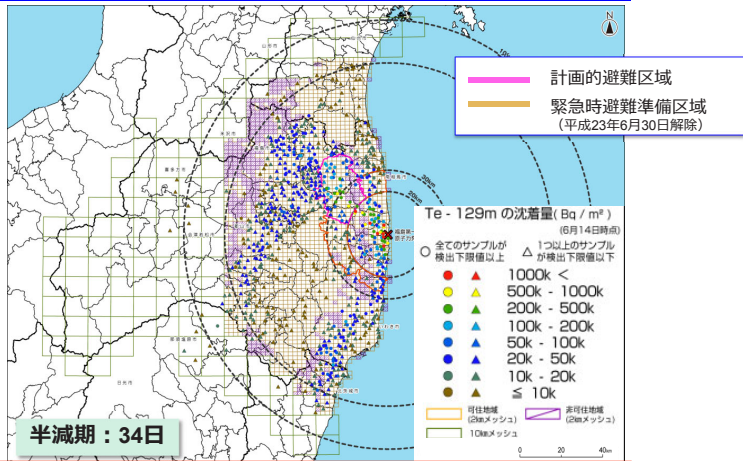


## テルル129mの土壤濃度マップ (平成23年6月14日時点)



テルル129mは半減期が短いため、平成23年12月6日以降に実施された第2次分布状況調査において、全ての調査箇所で見出されなかった

Bq/m<sup>2</sup> : ベクレル/平方メートル

文部科学省報道発表 平成23年10月31日、平成24年9月12日

2011 (平成 23) 年 6 月に行われた国の土壤調査では、福島第一原子力発電所から 100km 圏内及びその圏外の福島県西部の土壤試料を採取し、γ (ガンマ) 線放出核種 (放射性セシウム、ヨウ素 131、テルル 129m、銀 110m) について核種分析が実施されました。その結果、テルル 129m (沸点 1,390 度) 及び銀 110m (沸点 2,348 度) が比較的広範囲に検出されました。

また、南方沿岸部の内陸の一部の地域では、セシウム 137 に対してテルル 129m の沈着量が高い傾向が顕著に現れました。

この理由としては、福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出時期の違いにより、形成された放射性プルームに含まれるテルル 129m とセシウム 137 の比率の違いや放出された際の物理的・化学的形態が異なっていたこと、核種組成などが異なる幾つかの放射性プルームが通過したときの天候が異なっていたことなどが考えられます。

本資料への収録日 : 2013 年 3 月 31 日

本情報は事故当時 (2011 年) の情報です。

### 関連 Q&A

- ・ 3 章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・ 3 章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・ 3 章 QA3 農地土壤の放射性物質による汚染状況はどのようになっていますか
- ・ 3 章 QA4 物理減衰やウェザリング効果は、どの程度だと考えられるのですか
- ・ 3 章 QA12 雨水や日常食のストロンチウム 90 やセシウム 137 はどのようにすれば測れるのですか
- ・ 3 章 QA16 食品、上水中の放射性物質はなぜセシウム 134、セシウム 137 やヨウ素 131 の濃度しか発表されないのですか